

The 2 Chome Times 2025年11月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO330号

2025年・11月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス11月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目で KOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★2丁目商店街振興組合の韓国研修旅行

2025年センター街2丁目、秋の研修旅行は、10月28日から30日までの3日間、韓国ソウル市へ。今年就航開始となった大韓航空を利用して神戸空港から出発しました。真新しい国際線第二ターミナルから出国、さあ飛行機へと思っていたらなんとバードストライクに遭い、機体に変形したので代替便到着までの4時間、神戸空港にて待機となりました。その後無事出発でき、ソウル仁川空港に到着。遅い夕食になりましたが美味しい焼肉を頂き、移動などで疲れた気分も吹っ飛び、皆さんの会話も盛り上がり、第一日目は国都ホテルへ無事チェックインし終了。旅には思わぬハプニングがありますね。

2日目は皆さんそれぞれに自由行動。美術館を訪れるグループ、板門店へ行く人、明洞でショッピングを楽しむグループと個々に韓国観光を満喫しました。定番コースの景福宮で衛兵交代を見て、近くを散策しましたが、韓国政府が観光に力を入れているのが街並みに表れていました。新しく出来た現代美術館、日本の若者たちに人気のカフェショップ、秋の花が咲き誇る公園など、古いお城跡と現代デザインが融合し外国人観光客が楽しそうに街歩きをしていました。夜は明洞繁華街の人混みの多さに圧倒され、活気溢れるストリートに驚き、K-カルチャーの人気を肌で感じました。

最終日は仁川空港で最後の石焼きビビンバを食べて、名残惜しいですが神戸へ向かいました。今年は日韓国交正常化60周年の記念の年です。その年の研修旅行が韓国ソウル市になった事に深いご縁を感じます。予定が変更になっても笑顔で待っていてくれたガイドのパクさん、旅の安全と進行を気遣って頂いたツーリストイン神戸の吉田さん、ありがとうございました。神戸の街もこれから KOBE カルチャーを発展させて街に人が溢れるように、今回の旅行から色々と学びました。参加された皆様も心から楽しめた本当に有意義な旅でした。



★久元神戸市長、神戸市基本構想

今回、神戸市長選で大差をつけて4選を果たされた久元神戸市長ですが、それよりも以前の9月10日の街衆の勉強会に久元神戸市長をお招きし、久元神戸市長がお考えになる神戸市基本構想を御講演頂きました。それは「海と山に囲まれた美しいみなとまち」と題して、これからの都市創りについてご自身のお考えを述べる内容でした。まずその中で神戸は地域経済循環率が高く、神戸は「経済的自立」が出来ていると表現されました。昼夜間人口比率も神戸は102.5%前後で、これは神戸市が単なるベッドタウンではない事を示しています。そういう意味では自立性の高い神戸は他地域から人々に来てもらいたい国際都市であるべきだと。都市のスポンジ化を防ぐためには都市部を「非日常を楽しめる街」にして行く必要があります、ショッピング、アート、そして新たな職場創造を模



索し、駅前の車線を減少させ、回遊できるスペースを確保し、人々が集う街へと進化していくべきである。ウオーターフロントの充実を図り、メリケンパークとハーバーランドを会場デッキで繋ぐ構想もある。人口減少を抑制し、現存する社会インフラを生かしていく。その一例として神戸市は北神急行の市営化を実現しました。これには約 200 億円近い資金がつぎ込まれ、市民の移動への負担を減少させています。森林・里山の再生にもエネルギーを注いでいます。市域の約 5 割を占める里山は人の手が十分に入らず、樹木の高齢化や放置竹林の拡大、獣害などが課題となっている。再生戦略では市が大学や企業、市民らをつなぐ連携役となって、里山の資源循環や再生を進めて行くべきだとも力説されました。もちろん、これらだけではなく数多の施策が久元市長の構想の中にはあるはずです。そういう意味で今回の神戸市民の選択は正しかったと思います。これからの 4 年間も久元市長、どうぞよろしくお願い致します。

★つるかめ管財㈱ 井上氏 子供たちに寄付金

つるかめ管財㈱ 代表取締役社長の井上寛之氏が「児童養護施設の子供さん達の為に使ってください」と初めて多額の寄付をして下さったのが令和 3 年でした。それから毎年、今年で数えて 5 回目となる寄付を 10 月 31 日にして下さり、その贈呈式がセンタープラザ西館で行われました。これはなかなか出来るものではなく、井上氏には感謝の想いで一杯になります。「夢未来号」の実施にあたっては神戸市の財政支援を受けておらず、神戸の数多くの企業・個人様からの熱い想いを形にしたご支援による資金で成り立っているプロジェクトです。沖縄側からも名桜大学の学生さん達によるボランティア、美ら島財団やその他多くの支援と御協力もあり、これらは決して忘れてはいけないものですが、単独の企業様としては井上氏のご寄付は最大級のものであります。井上氏のご厚意や街衆の想いを子供さん達にお伝えし、「君達は決して世間から忘れられた存在ではなく、多くの大人たちが温かい目で見守っているのだよ」というメッセージを伝えています。井上社長、本当にありがとうございます。



(右端が井上寛之氏)

★編集後記

兵庫県立こども病院がファシリティドッグを導入する決定を下し、2027 年 4 月実施を目途にクラウドファンディングを中心にして寄付を募っているという話題にこのタイムズ 6 月号の編集後記で触れさせて頂きました。その寄付金の額が第一目標の 2,000 万円、そしてその次の目標の 4,200 万円を 7 月の時点で上回りました。この寄付金の額だけを見ればかなりの金額に上る様な気がしますが、実際には 2027 年導入までかなりの研修期間があり、その他導入後もファシリティドッグは、看護師などの臨床経験を持つハンドラーとペアで活動し、ハンドラーは、カルテを確認して子供さん達の状況を把握し、医師や看護師など、医療スタッフと連携して介入計画を立てます。さらに、平日 5 日間、毎日滞在するため、一度だけの関わりでなく、子供さん達の状態や治療計画に合わせた継続的・長期的な介入が可能になり、子供さん達との信頼関係を築くことができます。その為にはやはり資金が必要で、年間の経費が約 1,000 万円となり、この制度を永年に亘って継続していくためには継続的な寄付金が必要です。そこで前回の定例会では多くの街衆が少なくとも一人一万円の寄付を行いました。有難い事に㈱神戸プラザホテル様は単独で多額の寄付をして下さりました。皆様に感謝の念が絶えません。難病に苦しむ子供さん達を少しでも勇気づけるために少額でも大丈夫ですので

「是非私も」という方は以下のサイトからご寄付願えれば幸いです。

<https://congrant.com/project/hyogokch/20032>

美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

